



平成四年三月三十一日
平成五年七月十三日

平成四年(一九九二)

- 3・31 『みづくらいど』14号および『資料編近代』刊行
- 5・8 第65回編集専門委員会
- 6・20 現代班編集会議(川鍋委員他三人)
- 6・22 民俗班編集打合せ(調査員五人)
- 7・13 上巻校正打合せ(北原委員他)
- 7・22 上巻掲載写真撮影(檜原・戸倉城跡、宝林寺跡)
- 7・25 現代班編集会議(川鍋委員、橋本・高崎・柚木・田村・田中調査員)
- 7・30 現代資料編の編集(川鍋委員)
- 8・22 落合家文書撮影(八王子市高尾町)
- 8・26 熊川神社棟札撮影

- 8・27 現代資料編の編集(川鍋委員)
 - 8・31 上巻原始古代編原稿完成
 - 9・4 原稿編集作業で印刷会社と調整
 - 9・7 玉泉寺文書撮影(青梅市長瀬)
 - 9・8 『みづくらいど』15号編集打合せ(新井委員)
 - 9・10 八王子城古絵図撮影(石井家文書 狛江市)
 - 9・11 上巻近世編の編集(北原委員)
 - 9・12 市史公開講座(村方の諸経費と村民の生活)清水浩氏、「河原新田の開発」高崎勇作氏
 - 9・16 第66回編集専門委員会
 - 9・25 上巻原始古代編入稿する
 - 9・28 『みづくらいど』編集(新井委員)
 - 9・29 上巻民俗編入稿する
 - 10・1 近代班・梅田定宏氏参加
 - 10・2 上巻中世編図版編集(久保田委員)
 - 10・12 森田製糸関係資料の受領
 - 10・16 上巻中世編の編集(久保田委員)
 - 10・20 上巻初校正刷り届く
 - 11・9 上巻中世編一部入稿する
 - 11・9 第67回編集専門委員会
 - 11・10 上巻近世編の一部入稿する
 - 11・17 近世編の一部入稿する
 - 11・19 上巻中世編原稿完成
 - 11・25 市内板碑撮影(村野家) 資料調査室(近代、梅田調査員)
 - 11・26 市内板碑撮影(長徳寺)
 - 12・1 現代資料編打合せ(川鍋委員)
 - 12・5 石川酒造雑蔵展示資料の撮影
 - 12・15 農業資料の削減編集(田中調査員)
 - 12・16 行政資料の削減編集(橋本・柚木調査員)
 - 12・17 上巻近世編の編集(北原委員)
 - 12・18 農業資料原稿整理(田中調査員)
 - 12・22 上巻近世編の入稿完了する
 - 12・25 資料編現代入稿する。『みづくらいど』校正(新井委員)
- 平成五年(一九九三)
- 1・4 現代班編集会議(川鍋委員他四人)一日付人事異動で市史編さん室長に村野和男氏
 - 1・5 市内調査(川鍋委員) 下巻自然環境編等執筆打合せ(宮岡委員)
 - 1・6 『みづくらいど』15号校了
 - 1・11 第68回編集専門委員会

- 1・28 第14回編さん委員会
- 2・8 上巻中世編集集中校正（久保田委員 大久保・小松調査員）
- 2・15 上巻中世編集集中校正（久保田委員 大久保・小松・平野調査員）
- 3・13 市史公開講座（自治体史編さん と史料保存）鈴木邦男氏、「市民の歴史研究と郷土資料室」蛭田廣一氏）
- 3・25 第69回編集専門委員会
市史編さん室がもくせい会館（商工会館）二階へ移転
- 3・31 上巻編集（北原委員）
- 4・1 人事異動で板垣俊和主査の後任に山本定行主査が担当となる
- 4・7 ミタケサマ撮影
- 4・23 第70回編集専門委員会
- 4・26 上巻原始古代編・民俗編校了する
- 5・7 行政資料打合せ（橋本調査員）現代資料編集（川鍋委員）下巻文化財編打合せ（島田宇一氏）上巻中世編校了する
- 5・10 議会選出編さん委員任期満了
赤星行人委員 佐藤慶二委員
須釜亮次委員 指田保雄委員

- 新規選出編さん委員
上野重勝委員 野口秀世委員
佐藤慶二委員 浜中輝夫委員
- 5・17 上巻近世編校正（北原委員）
- 5・19 現代資料編の編集（川鍋委員）
- 5・21 上巻後書打合せ（事務局）
- 5・25 現代資料編の編集（川鍋委員）
- 5・28 社会教育資料の校正（田村調査員）
- 6・2 上巻近世編校了する
- 6・4 現代資料編校了する
- 6・25 第71回編集専門委員会
- 6・28 下巻自然環境編の編集（宮岡委員）
- 6・30 『福生市史上巻』および『資料編 現代』刊行
- 7・13 印刷会社大野氏退職挨拶に来室

編集後記



『福生市史』上巻に続き、下巻の刊行に向けて編さん事業も大詰めを迎え、編さん専門委員はもとより、事務局も忙しい日々

が続いています。こうした中で『みずくらいど』16号は、保坂芳春、伊東静一の両氏からは早々と原稿をいただきながら、編集の遅れから発行が大幅に遅れ、ご迷惑をおかけしたことを先ずもってお詫び申し上げます。

本号には歴史、民俗、自然など幅広いテーマの玉稿をいただきました。「麦打唄の周辺」はこの地に伝わる麦打唄の歌詞を手掛りに福生の地名の由来に迫る、保坂先生ならではの貴重な論考です。また、「福生自然観察グループの歩み」や「家計簿の中の歴史」も地域に密着した活動や歴史の貴重な記録です。

表紙には明治四十年、熊川での新嘗祭御供米收穫の写真を使用しました。写真を選定したのは昨夏で、時宜に合った企画でしたが、発刊の遅れから時期外れの観があります。ただ、米の部分自由化をめぐり、世間がやかましい中で、米は日本の文化ということを象徴する貴重な記録です。とかく経済性が優先される世の中ですが、伝統文化を継承することの大切さも再認識してもらいたいものです。

（和田 記）
編集担当は、宮岡一雄・和田 哲

みずくらいど 16号 (福生市史研究)

平成6年(1994)3月15日 発行

編集 福生市史編さん委員会

発行 福生市
〒197 東京都福生市本町5番地
電話 0425(51)1511

印刷 株式会社 精興社
〒198 東京都青梅市根ヶ布1-385番地
